

使徒の働き5章1-11節 「聖さを保つ交わり」

質問1. 使徒 2 章 42-47 節と 5 章 12-14 節を読んでください。それぞれに「すべての民に好意を持たれていた」「その人々は彼らを尊敬していた」とあります。好意や尊敬を持たれた理由を考えてみましょう。

質問2. 使徒 5 章 1-11 節を読んでみましょう。なぜアナニヤとサツピラは、死んでしまうという厳しい取り扱いを受けたのでしょうか？

1A 一つとなっていた共同体

1B 共にしていた祈り 1:14

2B 共有する教え 2:42

3B 共有する恐れ 2:43

4B 共有する財産(いたわり) 2:44-45

5B 共有する礼拝 2:46-47

2A 聖霊への欺き 5:1-11

1B 乏しい者がいなくなった仲間 4:32-37

2B 聖さを守る御業

1C 自分の所有 1-6

2C アカンの罪

3C 教会の共謀罪(「心を合わせて」)7-10

4C 非常な恐れ 11

本文

イエス様は、私たちキリストに従うように召された者たちの集まりが、家族であるように定めておられました。イエス様が御言葉を教えておられた時に、イエス様の母マリヤや兄弟たちがやって来て、イエス様を呼んだ時に、ご自分の言葉を聞いてそれを行なう弟子たちを見て、こう言われました。「マルコ 3:34-35 ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。神のみこころを行なう人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」かつて神がイスラエルを一つの家として、ご自分の家として選び、召しておられたように、新たにキリストの弟子たちをご自分の家族に召しておられるということです。

1A 一つとなっていた共同体

そこにあるのは、共同体の意識です。自分自身が単独に存在しておらず、キリストにあって他の人たちとつながっているという意識です。聖餐式にそれが象徴されていますが、一つのパンをみな

が食して、それで互いが主の体にあって一つであり、一つのぶどう酒の杯を飲み交わして、それで互いがキリストの血において一つになっているという意識です。ある人がこう言いましたね、「私たちはいろいろな血液型があるけれども、キリスト者はもう一つ、共通の血液型がある。」型だ。」そう、Jesus の血を持っているということです。それによって一つに結び合わされています。

1B 共にしていた祈り 1:14

ですから、私たちが他の兄弟姉妹と切り離して、自分自身を単独の存在として見ていくことは本質的にはできません。弟子たちは、イエス様が天に昇られた後も、屋上の中で心を一にして祈っていました。「使徒 1:14 この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。」そして聖霊が、みな心を合わせて祈っていたところに降られました。誰かが祈っていたとしても、それは実は他の人々も心を合わせて祈ることのできるものであり、アーメンと言うことが出来るものです。祈りはもっぱら神に向かいますが、あたかも自分自身も同じ祈りを神に向かって祈っているかのようにして、その祈りを共有しています。

2B 共有する教え 2:42

そして、山東さんが取り上げた 2 章 42 節を読んでみましょう。「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」ここには、使徒たちの教えを堅く守っていたところで一つになっていたことが強調されています。使徒たちの教えを守っていたから、交わりを保つことができました。イエス様が先ほど言われた、神の御心を行なっている者たちが兄弟であり、姉妹であり、母であり、子ですね。そのことによって、一人一人がイエス様を知るのですが、そのイエス様を分かち合うことによって、他の人たちもこの方にあずかり、それでキリストを知ることにいて固く結び合わされています。

3B 共有する恐れ 2:43

そして 2 章 43 節も続けて読んでみましょう。「そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって、多くの不思議なわざとあかしの奇蹟が行なわれた。」神に対する畏れ、畏敬の思いが一同の心に生じました。ここが、今回のセッションで特に取り上げたいところです。恐れというのは、神が恐い、恐怖ということではありません。神の偉大な力と、そこにある聖さのことです。使徒たちが行なう不思議なわざや奇蹟の中に、神の力と聖さが現れていました。私たちキリスト者は、主への恐れかしみ、その聖さを共にしているということで、一つになっています。

4B 共有する財産(いたわり) 2:44-45

そして 44-45 節は、慈善行為、憐れみにおける財産の共有がありました。「信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。」なぜ彼らが財産を共有していたのか？と言えば、もっぱら愛し合っているからからでした。自分のものを自分のものと主張せず、他者にも分かち合うこ

とによって、乏しい者たちが一人もいないようにしていました。ここで大切なのは、私たちが生きて
いる現代社会と当時は異なるということです。今ももちろん貧しい人たちはいます。けれども、当時
は今のような生活保護制度など、貧しい人たちのための社会的なセーフティーネットは存在しませ
んでした。しかし、イスラエルの家もまた教会も、その憐れみの業を行なうように神に命じられてい
ます。そこで彼らが考えたのは、全ての財産を共有することです。けれども、これは決して強制で
はなく、専ら愛の行為によって自発的なものです。

5B 共有する礼拝 2:46-47

そして礼拝も彼らは共に守っていました。「2:46-47 そして毎日、心をつにして宮に集まり、家
でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をもとにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主
も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」宮に集まるのも、心をつにして集まっていまし
た。そして家でパンを裂いて、食事を共にしていました。神を賛美していました。なぜ、彼らがイス
ラエルの民のみならず、好意を持たれていたのか？もつばら、この神の家族の形態をしっかり守っ
ていたからです。ユダヤ人たちが宮に礼拝に来たとしても、彼らには個人主義がやや入って来て
いたことでしょう。しかし、このユダヤ人たちは本当に互いをいたわり合い、祈りも、賛美も、財産も、
全てを共有していたのです。それで好意をもたれていました。イエス様が祈られたことが、まさにこ
のことでした。「ヨハネ 17:23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが
全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛
されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。」

紀元後四世紀に生きていた初代教父テルトゥリアヌスは、当時の異教徒、キリスト者ではない
人々が、キリスト者たちをどのように評価したかを書いています。「ほら、あれほど愛し合ってい
る。」と異教徒が言っていたと彼は証言しています。神の家族であるということ、互いに分かち合っ
ているということが、神を知らない人々にとって強烈な証しとなっていたのです。

2A 聖霊への欺き 5:1-11

1B 乏しい者がいなくなった仲間 4:32-37

それで、こうした愛による慈善行為が、続いていたことが4章32節以降に書かれています。「32
信じた者の群れは、心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべて
を共有にしていた。33 使徒たちは、主イエスの復活を非常に力強くあかし、大きな恵みはその
すべての者の上にあった。34 彼らの中には、ひとりも乏しい者がなかった。地所や家を持ってい
る者は、それを売り、代金を携えて来て、35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に従ってお
のおのに分け与えられたからである。」そしてその模範的な存在が、バルナバでした。「36 キプロ
ス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、37
畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。」

2B 聖さを守る御業

このように、私たちが互いに分かち合うというところに、神はご自分の力と聖さを保っておられます。この交わりを壊すのは、「自分のものとする」ということです。神の所有であるのに、それを自分だけのものにする。ゆえに、他の人々にも分かち合わず、自分だけのものにする。これを行なうと、神の聖さが壊されます。しかし神は、ご自分の聖さを保つためにしなければいけないことをされることがあります。それが5章1-11節にある、アナニヤとサツピラの話です。

1C 自分の所有 1-6

1 ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物を売り、2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。3 そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。4 それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」アナニヤはこの言葉を聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。6 青年たちは立って、彼を包み、運び出して葬った。

アナニヤは、何をもって聖霊を欺き、神を欺いたのでしょうか。ペテロは、ここにおいてアナニヤが代金の一部を自分のところに残したこと自体を問題にしているのではないことを明らかにしています。欺いたこと、偽ったことを問題にしています。他の兄弟たちが、自分の財産を全て売って、その代金を使徒たちのところに持ってきており、バルナバの惜しみない捧げ物もありました。しかしアナニヤは、あたかも自分がそのような愛の心があるのだと見せかけていただけだったのです。この偽善、偽りの良い行ないこそが、神によって打たれて死んでしまった原因でありました。私たちは、「一致」という言葉を聞く時に、「同調しなければいけない」と勘違いします。実際はそうではないのに、そのように見せかけることは、私たちの間でしばしば行われます。「和を乱してはいけない」と思って、実際は自分の生活、自分の思い、自分の考えはしっかり持っていながら、形だけは調子を合わせていくことを行なっているなら、それは一致ではなく、同調であります。そしてそれは、アナニヤの罪であり、仲間を汚す行為です。

ペテロが言った言葉をよく考えてみたいと思います。「それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。」アナニヤが勘違いしていたことがありました。一つは、この交わりが愛による行ないであることを知らなかったことです。「もともとあなたのもの」であるとペテロは言っています。土地を売ることに、何ら強制はなかったのです。次に、「神のものは、自分で楽しんでよい」ということです。「売ってからもあなたの自由になったのではないか」と言っています。自分の捧げたものによって、自分自身がその便益を得ること、自分がそれを楽しむことは、間違っておらず、むしろ聖いことなのです。私たちは、捧げ物をしたり、教会に献金をすることを間違っ

お返ししますね。けれども、自分は同時に教会の一部なのです。自分が個人プレーではなく、教会全体のために行なっており、そのためにかかる費用があって、その費用を教会から受け取るということは、聖なる営みであります。むしろ、共有しないでいることは、自分自身のためにそれを留めていることであり、そこに交わりにある聖さが失われてしまうのです。同調であるとか、遠慮するであるとか、日本社会の中では当たり前、時に美德とさえされていますが、実は、神の共同体、教会家族の中では汚れていることさえあるのです。

そして三つ目、ペテロの言葉には、もう一つの意味合いがあります。人間的な言い方をすれば「無理をする必要はない」ということ。霊的には、「ありのままの姿でいる」ということです。信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をするということです。自分が財産を全て売り払うことができない、そこまでの信仰が与えられていないということであれば、そのままの自分で交われればよいのです。これは勇気が要ります。へりくだりが必要です。信仰が与えられていないのだから、それは行わないとして、恥ずかしながらも、自分に与えられている信仰の量りで接していくことが肝要なのです。自分が他の人のように、真面目に取り組むことができないと感じても、引け目を感じても、それでも私は自分の与えられたもので、主に捧げていきたいとするならば、その正直さのゆえ主は受け入れてくださいます。自分ができないということを言えないことが、大きな問題であり、それは高慢であり、教会の交わりを破壊するものです。あの金持ちの青年が、自分に財産という偶像が心に出来上がってしまっていることを認めることができず、悲しい顔つきになってイエス様から離れて行ったのも、同じです。イエス様のところにいられなかったのです。それよりも、舟の中でイエス様の言葉によって大漁を経験し、そして、私は罪深い者です、私から離れてくださいという告白をしました。自分が他の人々にも、見られることを拒まないこと、自分の弱さについて他の人たちに正直であることが必要です。

2C アカンの罪

アナニヤの罪で思い出すのは、旧約においてはアカンの罪ですね。エリコを神が聖絶したのですが、そこにある金銀は神のものになります。神の幕屋に使われるものとしします。ところが、アカンがそれを自分の天幕の下に隠しました。そして、それがイスラエル全体に影響を与えました。アイの攻略に失敗したのです。人々の心に油断が出て、全力で主にあって立ち向かうことを怠りました。それでヨシュアが祈ったら、アカンが罪を犯していることが分かり、それでアカンを石打で取り除きました。それからアイを攻略することができました。神の家族において、自分の罪までもが他の人々に共有というか、影響が与えられてしまいます。したがって、自分自身の罪は自分自身で終わるのではないのです。

3C 教会の共謀罪(「心を合わせて」)7-10

7 三時間ほどたって、彼の妻はこの出来事を知らずにはいつて来た。8 ペテロは彼女にこう言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのですか。私に言いなさい。」彼女は「はい。その値段

です。」と言った。9 そこで、ペテロは彼女に言った。「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたのですか。見なさい、あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたをも運び出します。」10 すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。はいつて来た青年たちは、彼女が死んだのを見て、運び出し、夫のそばに葬った。

妻サツピラも、息絶えましたが、彼女の問題は心を夫に合わせたということでした。同じ心を合わせるであります、自分のところに押さえておくことを共謀しました。教会として共有するのではなく、自分のところに押しとどめておくということ、教会を家族と思わず自分だけの場だと思っている人に合わせていくと、何が起こるかと言えば、分裂です。これも神は忌み嫌われます。それで、自分が行なっていなくても同意した妻も、同じように取り除かれたのです。

4C 非常な恐れ 11

そして最後に、「11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちとに、非常な恐れが生じた。」とあります。このように、聖さが交わりの中に保たれていることによって、健全な恐れ、神への畏れかしこみが教会と周りの人々に生じました。それから 12-13 節につながるのです。人々は彼らを尊敬しており、そして主を信じる者も起こされていったのです。教会を家族にしていくことは、聖い営みであり、それこそが最大の強力な証しになります。